

〈小学校社会部会〉

I 研究主題

「個に応じた指導を展開するための学習過程の研究開発」

II 研究の概要

観点別学習状況の評価を生かし、個に応じた指導を展開するための学習過程の研究開発を行う。その際、適切な指導と評価の視点を明確にする。個に応じた指導と評価の計画の工夫・改善を図る。さらに補充的・発展的な指導を取り入れた学習過程を設定した指導の研究開発を行う。

III 研究の内容

1 個に応じた指導と評価の計画の工夫・改善と活用

研究主題を基に、まず、「個に応じた指導と評価の計画」の立案から総括までの流れを検討した。

個に応じた指導と評価の計画の作成

指導と評価の計画

- 補充的な指導や発展的な指導の手だてを想定した学習過程を工夫する。
- 社会科の評価の観点の趣旨を分析し、学習活動に即した具体的な評価規準を具体的な児童の学習の姿で表現する。
 - ・「おおむね満足できる」状況（B）と判断する児童の姿を明確にする。その際、「努力を要する」状況（C）と判断する児童への具体的な手だてや「十分満足できる」状況（A）と判断する視点も想定しておく。
- 単元の指導計画に評価の計画を位置付ける。
- 補充的・発展的な指導の具体的な手だてを想定する。

学習活動に即した小単元の評価規準及び具体的な評価規準を作成する。（昨年度研究成果）

個に応じた指導と評価の実際

ワークシート・評価補助簿などを生かした指導

- 児童の学習状況を評価規準に照らし合わせ、本時の学習に対する児童の姿を予想するとともに基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る具体的な手だてを考える。
- 評価の観点を明示したワークシート等を作成し指導に生かす。
- 次時の学習に対する児童の姿を想定する。
- 評価補助簿等を生かしてその後の学習過程、個に応じた手だてを工夫する。

全員に基礎的・基本的な内容の確実な習得を図る。十分達成しているとき個に応じた発展的な指導を行う。

努力を要する児童には、個別指導や教材の工夫により補充的な指導を行う。

発展的な指導

学習指導要領に示された内容を身に付けている児童に対して、その理解をより深めたり、さらに進んだ内容について学習を行ったりするなどの指導をする。

個の学習状況の的確な評価と指導

補充的な指導

児童の理解や習熟の状況に応じ、学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るための指導をする。

個に応じた指導と評価のまとめ

観点ごとの評価資料の整理・記入

- 評価補助簿などの整理をする。
- 次単元の学習過程、教材作成の準備、見通しをたてる。

2 評価に基づく個に応じた学習過程の開発

以下の手順で補充的な指導や発展的な指導を想定した単元の学習過程を作成する。

(1) 補充的な指導・発展的な指導の手だてを想定した学習過程の例

下の①、②は、単元の学習過程において、補充的な指導や発展的な指導を設定した学習過程の一例である。取り上げる教材・児童の実態・学校がある地域などによって、これ以外の例も考えられる。

① 毎時間ごとに補充的な指導や発展的な指導が設定されている例－実践例1－

つかむ 追究する まとめる

- ・つかむ段階では一斉指導を行う。
- ・毎時間ごとの評価を生かし、各時間の中で、補充的・発展的な指導に取り組む。
- ・「努力を要する」状況にあると判断した場合には、個別指導や理解の程度に応じた指導、教材の工夫などにより「おおむね満足できる」状況になるように指導を行う。
- ・高まりや深まりが見られ「十分満足できる」状況にあると判断した場合には、児童の学習が広がり、多面的になるように資料提示などの指導を行う。

② 学習の段階ごとに補充的な指導や発展的な指導が設定されている例－実践例2－

つかむ 追究する まとめる

- ・つかむ段階では一斉指導を行う。
- ・学習の段階ごとの評価を生かし、追究する段階やまとめる段階で補充的・発展的な指導に取り組む。
- ・「努力を要する」状況にあると判断した場合には、個別指導や理解の程度に応じた指導、教材の工夫などにより「おおむね満足できる」状況になるように指導を行う。
- ・高まりや深まりが見られ「十分満足できる」状況にあると判断した場合には、児童の学習が広がり、多面的になるように資料提示などの指導を行う。
- ・興味・関心にそったもの、他の事例や地域に学習を当てはめてみるなど、個の発想を生かした発展的な学習を行う。

(2) 子ども一人一人の可能性や個性を評価するための視点とその手だて

社会科の評価の観点の趣旨を分析し、評価の視点として具体的な子どもの姿で表現する。この表をもとに、補充的な指導・発展的な指導の具体的な手だてを想定する。下の表はそのための参考資料の一部である。

	評価の視点	「努力を要する」状況 (C) と判断する具体的な姿	その指導の手だて	「十分満足できる」状況 (A) と判断する視点	発展的な指導
観察へる	★思考・判断 (社会事象相互の関連性、社会的な意味を考える姿) ・調べたことどうしの関連を見つける。 ・調べたことどうしを比較したり、因果関係を見つけたりする。 ・調べたことどうしを統合して考える。	・調べたことが断片的になっている。 ・調べた内容と学習問題が結び付けられていない。 ・調べているものの全体像がつかめていない。	・資料の読み取りが効果的になるような助言、示唆をしない。 ・調べたことの原因と結果、つながりの有無などを具体的に問いかける。	・学習問題と調べていることの関連性を具体的に考えている。 ・予想と調べたことを結びつけて検証している。 ・調べたことどうしの関連を見つけ、社会事象を統合的に考えている。	・さらに多面的な見方ができるように新たな観点や資料を提示する。 ・調べた重点を生かして、発展的な学習へ移行できるように促す。
	★観察、資料活用技能、表現 (社会的事象を的確に観察・調査する姿)	・資料の大切な部分を見落としている。	・見落...	・資料の特色や必要性をとら...	・見つけたことと問題との関連だけでなく、自分の考えも構...

(3) 指導と評価の計画の作成

① 実践例1
6年 「徳川家光と江戸幕府」

学習活動内容	●評価・支援	具体的な指導 ◇補充 △発展
問題④ ○参勤交代や鎖国に関するそのほかの政策や出た来事について調べて分かったことをまとめる。	●調べて分かったことをまとめたり、調べたことから考えをまとめる。 アー① ウー① (振、ワ)	◇参勤交代の意味、鎖国の意味を考えるように助言する。 △調べる事象の内容を広げ、多くの政策や様々な出来事がそれぞれ、幕府の支配強化につながっていることを深く考えるようにする。

② 実践例2
4年 「郷土の発展につくすー玉川兄弟と玉川上水」

学習活動内容	●評価・支援	具体的な指導 ◇補充 △発展
問題③ ○玉川上水の開削の様子について調べて分かったことをまとめる。 ・玉川兄弟の働き き ・開削に使った道具 ・開削の様子 ・苦心や工夫	●予想にそって開削の様子について資料を調べまとめる。 アー① ウー① (ワ)	◇調べるための資料が選択できるように助言をする。 △調べることの幅を広げ、上水の開削について関連づけた調べができるようにする。

※学習過程に応じて、学習内容と相当する姿を照らし合わせて必要な補充的・発展的な指導の手だてを想定して作成する。

3 個に応じた指導を展開するための評価、計画、指導の流れ

〔計画をたてる場面〕

〔計画をたてる場面〕①②③
〔指導場面〕④
〔指導後〕④⑤

①～⑤の流れを繰り返し、
全員に基礎的・基本的な内容
の確実な習得を図る。

「努力を要する」状況（C）と判断
した児童には個別指導や理解の程
度に応じた指導、教材の工夫など
を行う。高まりや深まりが見られ、十
分満足できる状況にあると判断した
児童には個に応じた発展的な指導を行う。

①前時までの学習から、評価規準と照らし合わせて本
時の学習に対する児童の姿を予想する。学習状況が
特に顕著であると思われる児童については評価補助
簿にメモしておくといふ。

（評価補助簿の一例）

時間	1時間目	2時間目
指導の ポイント	江戸幕府や江戸城建築の事を知り、家光 が幕府の力を強めたことについて考える。	参勤交代の制度につ いて調べまとめる。
観点	アー① エー① イー①	アー① ウー①
児童①	Aよく考えて発言している	授業前の予想
児童②	B家光の政策と大名との関係を見ている	
児童③	B江戸城作りを知る C予想できない	資料を適切に探せないからし れない
児童④	B家光の政策を大名の力を弱めることに目 を向ける	
児童⑤	B大名の種類を知る B家光の政策に見通しをもっている	

※ 毎時間、全員の児童の姿について予想をすることは大変なことであるが、特に学習状況が顕著な児童については、教材の工夫を含めた学習の手だてを考えるためにもメモしておく有効である。

②評価規準をもとに、Cと判断する児童への具体的な手だてやAと判断する具体的な視点を想定する。

◇Cと判断する児童への具体的な手だて（例）

- 調べることを意識付けする
- 何を調べていくのか、個別に話しながら確認する
- 作業の方法がわかるワークシートを活用する
- 分かりやすく再編成した資料を提示する
- 調べて分かったことを個別に話しながらまとめる方法を示す

◇Aと判断する具体的な視点（例）

- 自主的に資料を選択・活用している
- 多面的に調べ考えている
- 事実と事実とを関連させている
- 自分の言葉で表現している

③本時における具体的な指導の手だて（助言・示唆の方向、アドバイスカードなど）を設定する。

主な学習活動 内容	●評価・支援		具体的な指導
	◇補充的な指導	△発展的な指導	
○玉川上水が完成するまでの開削の様子を調べる。 ・開削に使った道具 ・開削の様子 ・玉川上水のしくみ ・玉川兄弟の働き ・苦心や工夫	●資料を選択したり、活用したりしながら調べ、開削の様子をまとめている。 ◇本時に必要な資料をわかりやすくまとめ選択できるようにする。 ◇何を調べると問題の解決になるのか考えさせ、適切な資料を助言する。 ◇調べ方・まとめ方が分かるワークシートを与える。 △必要に応じて調べることに適した資料を自分から選択・活用しているか見守る。他の資料も参考にするよう促す。	△再構成した資料の提示 ◇子どもとの対話 ◇ワークシートの活用	△多面的に調べられる資料の提示

〔指導場面・指導後〕

④本時の学習状況を具体的な評価規準をもとに評価するとともに、前もって想定しておいた手だてを講じ、児童の変容の様子等を記録しておく（評価補助簿等を活用する）。

児童③ 資料を探すよう 助言した	児童⑥ C→B	児童③ 学習問題がとらえ られないC	児童④
児童⑤ 自分の考えを入 れられた	児童⑦	児童⑧ 関連を意識づけた ら課題意識が変わ った	児童⑧

補助簿には決まった形があるわけではないので、継続して評価できるものを工夫することが大切である。

〔指導後〕

⑤授業後に記録やワークシート等を整理し、本時の授業を児童の実態をもとに見直すとともに、次時以降の学習過程や個に応じた指導の手だてを工夫する。

IV 指導事例

事例 1

◎個に応じて補充的・発展的な指導を取り入れた実践例
 小単元名 「江戸幕府と徳川家光」 第6学年（11時間）

1. 小単元の目標

江戸幕府の始まり、大名行列、鎖国、及び歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学などについて興味・関心を深め、年表や文章資料などの各種の基礎的資料を活用し調べることにより、身分制度が確立し武士による政治が安定したこと、その後、町人の文化が栄え新しい学問が起こったことを考え、理解を深めるとともに、我が国の歴史や伝統を大切に、国を愛する心情を育てる。

2. 小単元の評価規準と学習活動に即した具体的な評価規準

	ア 社会的事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な 思考・判断	ウ 観察・資料活用の 技能・表現	エ 社会的事象 についての知識・理解
小単元の評価規準	江戸幕府による身分制度の確立や町人の文化や新しい学問に関心をもち、江戸時代の政策や栄えた文化を意欲的に調べ、我が国の歴史や伝統を大切に、国を愛する心情をもとうとする。	江戸幕府による身分制度の確立や町人の文化や新しい学問について問題を見いだして追究・解決し、人物や文化遺産が果たした役割を考え、適切に判断する。	身分制度が確立されていった様子や町人の文化や新しい学問が起こったことについて年表、文章、絵、図などの基礎的資料を効果的に活用したりするとともに、調べた過程や結果を工夫して表現する。	身分制度が確立され、武士による政治が安定したこと、そのことで町人の文化が栄え新しい学問が起こったことを理解している。
学習活動に即した具体的な評価規準	①江戸幕府の支配体制を強め、武士の政治を安定させた家光や国学や蘭学の新しい学問と浮世絵や歌舞伎の町人文化について関心をもち、意欲的に調べ、考えながら追究している。 ②政治の安定のために徳川幕府が行ったことや、社会の安定から起こった町人文化や学問などの先人の働きや文化遺産について理解と関心を深め、我が国の歴史や伝統を大切に、国を愛する心情をもとうとする。	①武士の政治が安定していったことについて問題意識をもち、学習の見通しをもって追究・解決している。 ②幕藩体制の確立や身分制度や町人の文化について調べたことをもとに、それらに関わった人物や文化遺産が国家・社会の発展に果たした役割を考え、適切に判断している。	①武士の政治を安定させた家光の政策や町人による文化や新しい学問について年表、文章、絵、図などの各種基礎的資料を活用し、人物の働きや文化遺産を具体的に調べている。 ②調べた過程や結果を目的に応じた方法で分かりやすく表現している。	①家光による政策により、大名をはじめ人々が統制され、身分制度が確立し、武士による政治が安定していったことが分かる。 ②政治が安定したことで、歌舞伎や浮世絵などの町人による文化が栄えたり、国学や蘭学などの新しい学問が起こったことが分かる。

3. 「十分満足できる」状況（A）と判断する具体的な視点

ア 社会的事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な 思考・判断	ウ 観察・資料活用の 技能・表現	エ 社会的事象 についての知識・理解
江戸幕府の支配体制を強め、武士の政治を安定させた家光や国学や蘭学の新しい学問と浮世絵や歌舞伎の町人文化について、自分が追究したことをもとにさらに関心をもち、意欲的に調べより深く考えながら追究している。	幕藩体制の確立や身分制度や町人の文化について調べたことをもとに、それらにかかわった人物や文化遺産が国家・社会の発展に果たした役割を多面的にとらえながら考え、より適切に判断している。	調べた過程や結果を、目的に応じた方法で表現するとともに、調べたことを関連付け分かりやすく表現している。	家光の政策が、長く続いた江戸時代の基盤となったことや政治が安定したことで町人の文化が栄えたことを関連付けながら理解を深めることができる。

※ 網掛け部分のような深まりや高まりが見られたときに(A)と判断する。

4. 具体的な評価規準に基づく児童の学習の姿

	1時間目	2時間目	3時間目	4時間目	5時間目	6時間目
児童の学習の姿	関① 資料からなぜ、手伝い普請を西国の大名が多く請け負っているかについて疑問をもち、意欲的に調べようとしている。 思① 「家光の台詞」の資料をもとに、家光の権力や人間性について予想することができる。	関① 参勤交代に関する資料を自分で探し、課題に沿って意欲的に調べている。 技① 参勤交代の意味を、資料から的確に読み取りまとめることができる。	関① 鎖国に関する資料を自分で探し、課題に沿って意欲的に調べている。 技① 鎖国の意味を、資料から的確に読み取りまとめることができる。	思① 学習問題と調べたことを関連させながら武士の政治が安定していった理由を的確に考え、まとめている。 技① 鎖国や参勤交代、その他の政策に関する意味を、的確に読み取りまとめることができる。	技② 鎖国や参勤交代、その他の政策について、調べたことの要点と自分の考えを的確に書き入れるとともに分かりやすく作品にまとめている。	関② 自分が調べたことと友達の発表から、家光の姿勢に関心を高めている。 思② 家光の働きを各事象を関連付けながら的確にまとめている。 知① 家光の様々な政策により、武士による政治が安定したことに気付いている。

5. 評価規準をもとにした補充的・発展的な指導の手だて

補充的な指導

①江戸幕府が開かれるまでを年表の事実を一つ一つ順にとらえられるように助言する。 関①
家光の力について、家光の年齢、言動から想像できることをすべて書くように指示する。 思①

②③参勤交代、鎖国に関する補助資料を与えたり、その記述がある教科書や資料集のページを知らせたりする。 技① 思①

④⑤参勤交代と鎖国の意味について考えられるようにアドバイスカードを与える。 技① 思① 技②

⑥江戸幕府が力を強めた理由や家光の働きによってどのようなようになったのかもう一度考え直すように助言する。 関② 思② 知①

学	問題をつかむ①	問題を追究する②③④⑤	まとめる⑥
習	① ・江戸幕府が開かれたことを年表をもとに知る。 ・江戸城建築と大名の関係を手伝い普請の資料から知る。 ・この時の将軍が家光であることから家光の力を考える。	②・参勤交代の制度を調べ、その意味を考える。 ③・鎖国を調べ、その意味を考える。 ④・参勤交代や鎖国に関することをさらに調べ、それぞれの意味を考えまとめる。 ・家光のその他の政策や出来事を調べ、その意味を考える。 ⑤・調べたことを図に表し、家光の働きやその役割を考える。	⑥ ・調べたことをグループ内で発表し家光の働きについてまとめる。

発展的な指導

④⑤
・調べる事象の内容を参勤交代と鎖国以外に広げるように指示する。
・家光の政策に関わる身分制度やキリスト教禁止などの他の資料を提示する。
・それぞれの事象のつながりについて考えるように助言する。

⑥
話し合いをもとに自分の考えをさらに見つめ直し、新たな意見がもてるように助言する。

(1) 補充的な指導をした例 T児の学び

第1時

具体的な評価規準に基づく児童の学習の姿
関①・資料からなぜ、手伝い普請を西国の大名が多く請け負っているかについて疑問をもち、意欲的に調べている。
思①・「家光の台詞」の資料をもとに、家光の権力や人間性について予想することができる。

T児のワークシートの内容
・なぜ遠い大名に頼むのか。外様大名に頼むのか。
・若いのに自信や度胸があつてすごいな。
・よく年上の人に向かって言えるな。

評価補助簿への記録
B
・熱心に資料を読み取っていた。
・江戸城建築については疑問のみで想像したことなどの考えはなかった。

第2時

具体的な評価規準に基づく児童の学習の姿
関①・参勤交代に関する資料を自分で探し、課題に沿って意欲的に調べている。
技①・参勤交代の意味を、資料からの確に読み取りまとめることができる。

T児のワークシートの内容
・大名行列は何のために行われたか
・妻子を江戸に人質にした。
・1年おきや人数を細かく決めた。
・行列で全国の宿場町が栄えた。

評価補助簿への記録
C
・参勤交代の概要は理解できている。
・幕府にとっての意味については考えられていない。

第4時

補充的な指導
・参勤交代に関するアドバイスカードを渡す。
・なぜ参勤交代を行ったのか考えるように指示した。

T児の活動とワークシートの内容
○参勤交代を調べ直す。
○ワークシートの記録内容
・お金と時間をかけさせた。
・武家諸法度で決められている。
○武家諸法度の内容を調べる。

第6時

T児の活動の様子
○調べたことを報告する。

参勤交代調べアドバイスカード
参勤交代に関することを調べるときに、ぜひ調べてほしいことは、
①参勤交代とはどういうことか
②この制度はいつ頃、「何」に追加された決まり事か
③幕府はなぜ参勤交代をさせるようにしたのか
④大名たちは参勤交代をどう考えていたのか。その理由は
⑤幕府にとって参勤交代はどんなものといえるのか
⑥参勤交代と学習問題がどうつながっていたのか自分の考えをまとめよう

T児の評価
第2時の参勤交代を調べたときは内容や意味についての理解が不十分と判断した。そこで第4時にアドバイスカードを与え調べ直すように促した。その後調べ直した内容を見て、「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。

参勤交代

「お金と時間をかけさせた」
「武家諸法度で決められている」
「大名行列が通ることで、全国の宿場町が栄えた」
「幕府は参勤交代をさせるようにした」
「大名たちは参勤交代をどう考えていたのか。その理由は」
「幕府にとって参勤交代はどんなものといえるのか」
「参勤交代と学習問題がどうつながっていたのか自分の考えをまとめよう」

江戸の家光

金貞園

(2) 発展的な指導をした例

K児の学び

第1時

具体的な評価規準に基づく
児童の学習の姿
関①・資料からなぜ、手強い普請を西国の大名が多く請け負っているかについて疑問をもち、意欲的に調べている。
思①・「家光の台詞」の資料をもとに、家光の権力や人間性について予想することができる。

K児のワークシートの内容
・石垣造りは大変な作業、九州の大名に任せたのはなぜ
・自分の位に自信をもっている。地方の大名も従わせるすごい力だ。

評価補助簿への記録
B
・石垣に目を向け、その大変さを共感する。
・家光の力について、よく考えている。

第3時

具体的な評価規準に基づく
児童の学習の姿
関①・鎖国に関する資料を自分で探し、課題に沿って意欲的に調べている。
技①・鎖国の意味を、資料からの確に読み取りまとめることができる。

K児のワークシートの内容
・キリスト教の禁止と貿易の利益独占のため鎖国をした。
・キリスト教は幕府の妨げになる。
・キリスト教の団結の強さを幕府はおそれた。

評価補助簿への記録
A
・鎖国の内容とその理由を的確に調べまとめている。
・深まった見方ができている。
・十分満足できる状況と判断し発展的な指導を促す。

第4時

発展的な指導
・参勤交代と鎖国以外の政策を調べるように指示する。
・身分制度、キリスト教の禁止に関する資料を与える。

K児の活動とワークシートの内容
○資料の身分制度に興味をもち調べる。
○ワークシートの記録内容
・將軍や大名を中心に様々な身分に分かれている。
・村人が暮らしを支えたにもかかわらず、幕府は武士を一番の位にし、武士中心の世の中を作ったんだ。

第5時

第6時

K児の活動の様子
○調べたことを報告する。
○発言内容
「家光は多くの大名や村人などの人々をいろいろな決まりで幕府に従わせ支配した。また鎖国をして、キリスト教を押さえるようにした。つまりいろいろな制度をつくり幕府に従わせることで幕府の力を強めた。」

調べたことを図にまとめよう！

○タイトル、事実、○考え、思い
○学習問題につながるキーワード

家光はどのようにして幕府の力を強めていったのかだろうか。

身分制度
江戸時代の人は、將軍や大名を中心にさまざまな身分に分かれていた。人口が最も多かったのは村人だった。
幕府は士農工商という身分制度をつくりあげ幕府が最もおごる武士が一番高い位とし、農民や士は低い位だった。
○村人が武士の世帯を支えたにもかかわらず、幕府は武士を一番の位にした。村人の暮らしが楽になった。

鎖国
鎖国とは江戸幕府が外国との交流を止め、国を閉ざした政策。江戸幕府は200年あまり続いた。
鎖国をするによって幕府は利益を得た。
幕府の利益

参勤交代
幕府は大名の妻や子を江戸に住ませ、大名を一年おきに東上りさせ幕府に参勤させた。
家光は参勤交代法を改め、大名の力を弱めた。

出島
幕府は長崎にうめたて島(出島)をつくり、オランダ人を7人だけ住ませました。貿易は出島だけに集中させていた。

幕府
幕府はキリスト教を禁止する理由も鎖国にあり、金鎖国の原因

徳川中興の偉人

K児の評価
第2時、3時の活動及び調べたことをもとにした考えが的確で深まった見方ができており「十分満足できる」状況(A)と判断した。そこで第4時の活動で家光の年譜から、身分制度に興味をもったので資料を与えた。(発展的な指導)
そして第6時の学習問題に対する自分の考えをまとめる活動では、今まで調べたことを関連づけながら、家光の働きをまとめるように指示したところ、多面的にとらえるまとめができた。この学習内容から発展的な指導が生かされたと判断する。

事例 2

◎個に応じて補充的・発展的な指導を取り入れた実践例

小単元名 「郷土の発展につくす」－玉川兄弟と玉川上水－ 第4学年 (10時間)

1. 小単元の目標

玉川兄弟などの働きについて興味・関心をもち、資料を活用しながら調べることにより、江戸の開発に尽くした玉川兄弟の働きや苦心が人々の生活を向上させたことを考え、地域社会に対する誇りと愛情を育てる。

2. 小単元の評価規準と学習活動に即した具体的な評価規準

	ア 社会的事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 観察・資料活用の 技能・表現	エ 社会的事象 についての知識・理解
小単元 の評価規準	地域の発展につくした先人の働きに関心をもち、それを意欲的に調べ、地域の人々が生活の向上のためにしてきた工夫や努力を大切に、地域社会に対する誇りと愛情をもとうとする。	地域の発展に尽くした先人の働きから学習問題を見いだして追究・解決し、地域の人々の願いを実現していったことを適切に判断する。	地域の発展に尽くした先人の働きやその後の人々の生活の変化について調べたりまとめたりして調べた過程や結果を工夫して表現する。	地域の人々の生活の向上のため上水の開削が必要であったこと、それにより地域が発展したことから先人の働きや苦心を理解している。
学習活動に即した具体的な評価規準	①江戸の人々の生活から上水の開削に関心をもち玉川兄弟などの働きについて意欲的に調べている。 ②地域の発展に尽くした玉川兄弟などの生き方に関心をもち地域社会の生活向上にかかわった先人について理解を深めるとともに東京都に対する誇りと愛情をもとうとする。	①玉川上水が開削されたことについて、問題意識をもち学習の見通しをもって追究・解決している。 ②玉川上水の開削の様子や工事の工夫について調べたことをもとに、それらにかかわった人々が現在の東京の発展や生活の向上に尽くしたことを考える。	①上水を開削した玉川兄弟の工夫や努力それにより人々の生活が向上したことを資料を活用して調べている。 ②玉川上水の開削の様子や工事の工夫などについて調べた過程や結果を分かりやすく表現している。	①江戸の人々の願いにより上水を開削した玉川兄弟の働きや開削の様子から苦心や工夫がわかる。 ②玉川上水の開削が地域の人々の生活の向上に大きな影響を及ぼしたことが分かる。

3. 「十分満足できる」状況 (A) と判断する具体的な視点

ア 社会的事象への 関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断	ウ 観察・資料活用の 技能・表現	エ 社会的事象 についての知識・理解
江戸の町の人々の願いから上水を開削した玉川兄弟の働きやその後の地域の発展について、自分が追究したことをもとにさらに関心をもち、意欲的に取り組んでいる。	上水の開削の様子や玉川兄弟の働き、その後の地域の発展について調べたことをもとに、それらの事業にかかわった人が地域の発展や生活の向上に尽くした意味を多面的にとらえ深く考え判断している。	学習問題の解決の見通しをもって資料を活用し、調べた過程や結果を工夫してまとめるとともに、自分の考えを織り交ぜて表現している。	玉川兄弟の働きと地域が発展し、人々の生活が向上したことを関連付けながら玉川上水の役割について理解を深めることができる。

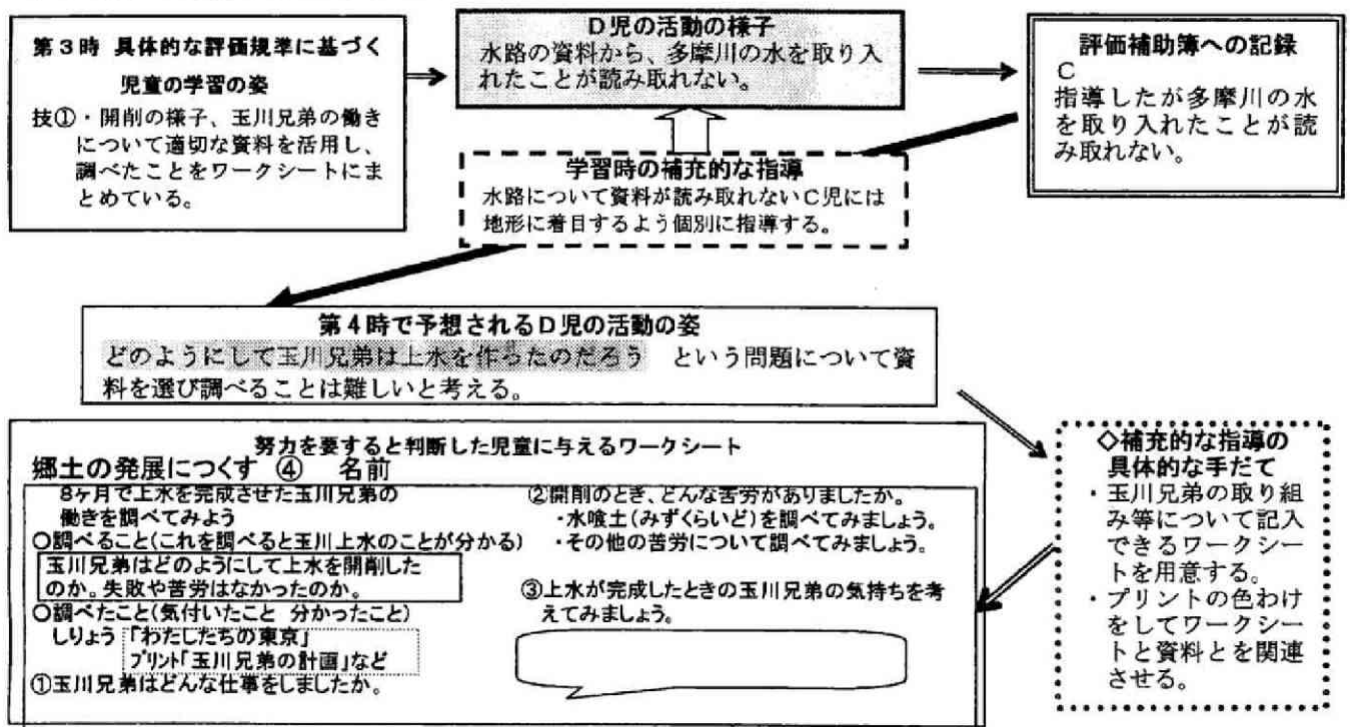
※ 網掛け部分のような深まりや高まりが見られたときに、(A) と判断する。

4. 小単元の指導と評価の計画

学習過程	問題をつかむ	問題を追究する	まとめる
	1・2時	3～8時	9・10時
学習活動	<p>1 江戸の町で上水が必要になった理由を資料を基に調べるとともに、江戸の人々の願いを考える。</p> <p>2 江戸の町で上水の開削が必要であることに気づき、開削にかかわる学習問題をつくり調べる計画を立てる。</p>	<p>3 玉川上水の水路について予想をたて、調べて分かったことをまとめる。</p> <p>4 玉川上水の開削の様子について調べて分かったことをまとめる。</p> <p>5 調べたことをもとに開削についてまとめる。</p> <p>6 玉川上水の水を江戸の町に配る様子を調べ、まとめる。</p> <p>7,8 開削で人々の生活が向上したことを調べ、まとめる。</p>	<p>9,10 玉川兄弟の働きと地域の発展についてまとめ話し合う。</p>
具体的な評価規準に基づく児童の学習の姿	<p>1,2 関①・水不足の資料から江戸の町で上水が必要になった理由や開削について調べたことを意欲的にワークシートに書いている。</p> <p>思①・開削の様子を表した資料から玉川兄弟がどのようにして上水をつくったのか予想をもち何を調べると解決できるか学習の見通しをもっている。</p>	<p>3,4 関①・開削の様子、玉川兄弟の働きについて進んで資料を選び意欲的にワークシートに書いている。</p> <p>技①・開削の様子、玉川兄弟の働きについて適切な資料を活用し、調べたことをワークシートに分かりやすくまとめている。</p> <p>5 関②・上水が完成し、地域が発展した様子について、適切な資料を選び意欲的にワークシートに書いている。</p> <p>6 技①・上水が完成したことにより、どのように地域が発展したかについて、適切な資料を活用し調べたことを分かりやすくワークシートにまとめている。</p> <p>7,8 思①・上水の完成がその後どのように地域の発展や人々の生活の向上に影響を及ぼしたのか、予想をもち、何を調べると解決できるか見通しをもっている。</p> <p>知①・資料や友達が発言などから、上水を完成させた玉川兄弟の苦心や工夫について、分かったことを的確にワークシートに書いている。</p>	<p>9,10 技②・開削の様子や工事の工夫について資料を活用して調べたことを分かりやすく新聞にまとめている。</p> <p>知②・調べたことから上水が完成し江戸の町の人口が増加したこと、武蔵野の新田が開発されたことなど人々の生活に影響を及ぼしたことが分かる。</p> <p>関②・調べたことをまとめたり、友達の作品を見たりすることで玉川兄弟などの生き方や東京都の開発に関心を持ち、意欲的にまとめようとしている。</p> <p>思②・上水の開削の様子や工事の工夫について調べた事実と、上水の完成が江戸の町の発展や武蔵野の新田開発に結び付いたことを関連付けて考え、新聞にまとめることができる。</p>
評価に基づく指導	<p>◇資料の見方を指導する。</p> <p>◇何を調べると玉川上水のこと分かるのか、調べ方を示す。</p>	<p>◇追究の着眼点もてるようなワークシートを提供する。</p> <p>◇資料をもとに重要な点や言葉を共に確認し理解を促す。</p>	<p>◇調べたことを分かりやすくまとめるようまとめ方を例示する。</p> <p>◇当時の人々の気持ちになって開削や地域の発展についてまとめることを指導する。</p>
	<p>△発展的な指導</p>	<p>△調べる事柄の幅を広げ、関連付けた調べ方ができるように資料を用意し提供する。</p> <p>△生活の向上について武蔵野の新田開発の他の事例に広げて調べることができる資料を提供する。</p>	<p>△調べたことをもとに上水の開削と関連付けてまとめるよう促す。</p> <p>△自分の考えを織り交ぜながら話し合いをすることを指導する。</p> <p>△ほかの表現方法でまとめをするよう指導する。</p>

5. 補充的・発展的な指導と評価の実践

(1) 補充的な指導をした例 D児の学び



第4時 具体的な評価規準に基づく児童の学習の姿
技①・開削の様子、玉川兄弟の働きについて適切な資料を選び意欲的にワークシートに書いている。

◇補充的な指導の具体的な手だて
・用意したワークシートを渡す。
・分かりやすく再構成した資料を提示する。
・個別に対話をしながら資料の読み取りを指導する。

D児の活動の様子
・玉川兄弟の取り組みについて記入できるワークシートを活用する。
・ワークシートに示してある資料を探して調べる。

・玉川兄弟の開削についての工夫を調べることができなかった。指導した資料を声を出しながら読み、玉川兄弟の働きについて書く。
・友達の発言に関心をもって聞く。

D児の評価
探してきた文書資料を声に出しながら読む。そこから分かる玉川兄弟の働きについてワークシートに書く。話し合いからも働きについて書き加える。以上のD児の姿は、「おおむね満足できる」と判断する。

(2) 発展的な指導をした例 E児の学び

第4時 具体的な評価規準に基づく児童の学習の姿
技①・開削の様子、玉川兄弟の働きについて適切な資料を選び意欲的にワークシートに書いている。

Aと判断する視点
・自主的に玉川兄弟の働きが分かる資料を複数選び、活用しているか。
・調べた玉川兄弟の働きを具体的に示しながら自分の考えを表現しているか。

第4時 E児のワークシート

開削について調べよう

1. 江戸上水はなぜ開削されたのかを調べよう。(20日)

2. 江戸上水はなぜ開削されたのかを調べよう。(20日)

3. 江戸上水はなぜ開削されたのかを調べよう。(20日)

4. 江戸上水はなぜ開削されたのかを調べよう。(20日)

5. 江戸上水はなぜ開削されたのかを調べよう。(20日)

6. 江戸上水はなぜ開削されたのかを調べよう。(20日)

7. 江戸上水はなぜ開削されたのかを調べよう。(20日)

8. 江戸上水はなぜ開削されたのかを調べよう。(20日)

9. 江戸上水はなぜ開削されたのかを調べよう。(20日)

10. 江戸上水はなぜ開削されたのかを調べよう。(20日)

評価補助簿への記録 A
どのように玉川兄弟は計画を立てたかという問題の解決に向けて複数の資料を的確に選ぶ。上水の開削の流れが分かるように調べたことを箇条書きに自分の言葉でまとめる。

多面的にとらえることができる資料を提示

△発展的な指導
第5時は何について調べるか確かめると「玉川上水は江戸の町の水不足のために開削されたのだから、上水をどのようにして送っていたか調べたい」と話す。問題が的確であることを認める。上水の開削について関連付けた調べができるよう資料を提供する。

Aと判断する視点
・玉川上水の開削と江戸の町への配水について多面的にとらえて考えているか。

第5時 E児のワークシート

第5時 ワークシート

1. 江戸上水はなぜ開削されたのかを調べよう。(20日)

2. 江戸上水はなぜ開削されたのかを調べよう。(20日)

3. 江戸上水はなぜ開削されたのかを調べよう。(20日)

4. 江戸上水はなぜ開削されたのかを調べよう。(20日)

5. 江戸上水はなぜ開削されたのかを調べよう。(20日)

6. 江戸上水はなぜ開削されたのかを調べよう。(20日)

7. 江戸上水はなぜ開削されたのかを調べよう。(20日)

8. 江戸上水はなぜ開削されたのかを調べよう。(20日)

9. 江戸上水はなぜ開削されたのかを調べよう。(20日)

10. 江戸上水はなぜ開削されたのかを調べよう。(20日)

第4・5時のE児の評価
玉川上水の開削について玉川兄弟の計画から江戸の町に水が送られることまで関連付けて複数の資料から調べ、自分の言葉でまとめていた。玉川上水の開削の工夫について、江戸の町への配水までを含めて多面的に調べ理解を深めることができたので、発展的な指導が生かされたと判断した。

V 個に応じた指導を展開するための学習過程の工夫(○)と主な成果(◎)

1 評価する児童の姿の明確化

○具体的な評価規準に基づいて児童を評価するにあたり、評価の観点の趣旨を分析し、「おおむね満足できる」状況(B)を設定する。そこから本時で身に付けさせたい具体的な姿を明確にして個々の学習状況を把握し、「努力を要する」状況(C)の児童への具体的な手だてや「十分満足できる」状況(A)と判断する児童の視点を想定する。

◎各時間に身に付けさせたい具体的な学習の姿を明確にすることで、個々の児童の学習状況を適切に評価することができる。また、評価に基づいて個に応じた手だてを具体的に想定することができる。

2 評価に基づく個に応じた指導の手だての想定

○前時までの学習状況の評価をもとに、個に応じてアドバイスカード・ワークシートの工夫、新たな提示資料の準備などの具体的な指導の手だてを想定し、本時における指導にあたる。

◎評価をもとに個に応じた指導の手だてを想定しておくことにより、本時において、より具体的な指導を講じることが可能となる。また、本時で予想した児童の姿と想定した手だての有効性を分析することにより、その後の学習過程の修正や次単元への工夫や改善点が明確になる。

3 個に応じた指導と評価の分析、及び工夫・改善

○前時までの児童の学習状況をもとに、本時における個に応じた指導の手だてを想定し、全員に基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るよう、個に応じた指導を行う。また、本時内及び本時後に評価規準を基に児童を評価し、個々の児童に対する手だての有効性を分析する。その結果から次時の学習における個々の児童の学習状況を想定し、個に応じた指導の手だてを考え、指導に生かす。

◎上記の評価→計画→指導→評価・・・を単元の学習の中で繰り返し、評価結果を次の指導に生かすことにより、個々の児童の学習状況に対して、より有効な手だてを講じることができる。また、基礎的・基本的な内容の定着を一層図ることができる。

4 補充的・発展的な指導を取り入れた学習過程の作成

○個に応じた補充的な指導や発展的な指導の手だてを学習活動に応じて想定し、学習過程の中に計画的に取り入れる。

◎補充的な指導や発展的な指導の手だてを想定した学習過程を作成することにより、計画的、かつ具体的に個に応じた評価と指導の一体化を図ることが可能になる。

5 今後の課題

○評価をさらにその後の指導に生かすために、学習形態や各学習過程、さらに評価の観点に応じてどのような評価方法が適しているのかを検討する必要がある。

○補充的な指導や発展的な指導などの個に応じた指導を行う場面や学習過程をさらに研究・開発し、個に応じた指導と評価の一層の一体化を図る必要がある。

○個々の児童に対する補充的な指導や発展的な指導の有効性を検証するとともに、想定した児童の姿や講じた手だての見直しなどを行い、評価と指導が一層充実したものになるように工夫・改善する必要がある。

○発展的な指導において、具体的な指導内容や教材などを一層開発する必要がある。